

5. 仁淀川流域の方言調査

生徒：仁淀川流域の方言調査は今年で6年目になります。昨年までの5年間で、仁淀川町内の17カ所と愛媛県久万高原町にフィールドワークに行きました。水色が仁淀地区、赤色が吾川地区、紫色が池川地区です。

調査で大変なことはお年寄りを捜すことです。方言調査には、生え抜きの方が望ましいとされています。生え抜きとは、その土地で生まれ、引っ越しを経験していない人のことです。でも今の時代に一度も引っ越しをしたことがない人を捜すのはとても難しいので、18歳までに一度も引っ越しをしていない人も生え抜きとしています。

仁淀川町は高知県の中でも比較的方言が残っている地域だと思います。これまでの調査結果の中から方言をいくつか紹介します。トウモロコシを何と言いますか。

トウモロコシは仁淀川町全域で「キビ」「トウキビ」と言います。トウモロコシを粉にしたものを「コンコ」「ハナゴ」と言います。「コンコ」はトウモロコシを乾燥させて粉にしたもの、「ハナゴ」は煎って粉にしたものだそうです。また、ポップコーンのことを「ガンガ」と言います。

(目にできる)ものもらいは「メイボ」「メーボ」「メボウ」と、地域によって少しずつ違いがありました。一番多かったのは「メーボ」です。ものもらいの治し方を聞くと、髪の毛や馬の尻尾の毛を涙穴へ差し込んで治す方法を教えてもらいました。ちょっとやってみるのには勇気が要りますが、本当にすぐ治るそうです。

(くるぶしを)「カイク」あるいは「カイクのコッコ」と言います。「コッコ」とはこぶのことだそうです。高知県で一番古いくるぶしの言い方は「トリコノフシ」と言うそうです。秋葉神社近くの別枝というところでは、この「トリコノフシ」を聞くことができました。別枝には他にも古い言葉が残っているかも知れません。

今年度で調査は最後になる予定なので、あまり調査していない吾川地区、池川地区にフィールドワークにも行きたいと考えています。そしてこれまで調査してきた結果をまとめて、小さい本を作りたいと思っています。録音した内容を一字一句文字化することで、少しでも方言を記録していきたいと考えています。

教育長：方言の調査は大変おもしろいと思います。方言というのはアクセントもあるし、呼び名もあります。おもしろいと思います。皆さん方がそれぞれの地域へ行って聞いて残したものには、高知県方言辞典にもないようなことがあると思います。それは今調べておいたらおもしろいかも知れないですよ。感心しました。

知事：確かに皆さんが調べたことは、そのまま高知県方言辞典を修正あるいは追加することにつながっていくかも知れません。だとすると、ずっと残っていくことになりますよね。

これはどのように調査しているんですか。自由に話をしてもらいますか。例えば、くるぶしのことを「トリコノフシ」と言うということについて、くるぶしの話題にならないと出てこないでしょう。くるぶしを話題にすること自体がものすごく難しいような気がしますが、そのあたりの調査方法が難しそうだなと思いました。

生徒：こちらでいろいろな質問を考えて、それをお年寄り方に昔風に言ってもらおうようにしています。

知事：いろいろな質問をするわけですか。その質問の仕方が腕ですね。くるぶしって何と云うんですかって聞くわけではないですよ。大体当たりがあるのかな。

生徒：これは何ですかって聞いたりもします。

知事：なるほど。6年目の調査になってくると、5年目までずっと調査をしてきたので、大体全て聞いて終わったかなみたいな感じもしないでもないですけど、まだまだでしょうか。まだ新しい発見がありそうな、そんな感じですか。同じ言葉でも、仁淀川町の中で地域によって違ったりしますか。

生徒：はい。吾川地区、仁淀地区、池川地区でも違います。

知事：高知県方言辞典にも書いてないこともたくさん出てくるでしょうから、これは偉大な作業だと思います。ぜひ頑張ってください。